

さいはっけん
再発見-ハネナガイナゴ-

その昔、水田にたくさん発生しイネの大害虫とされてきたイナゴは、その一方でタンパク源としても食用とされてきました。富山県内でも、第二次世界大戦中や終戦直後のころには、学校などでも採取していたところがあったとのことで、食べた経験のある方もおられるでしょう。

戦後、水田ではたいへん強力な殺虫剤が使用され、イナゴもたいへん少なくなっていました。

ところで、「イナゴ」は1種ではなく、日本国内には8種いて、富山県には、「コバネイナゴ」と「ハネナガイナゴ」の2種がいます。コバネイナゴは、最近では県内の水田に広く見られるようになってきましたが、害虫として注意されるほどでもないようです。もう一方のハネナガイナゴは、富山県内では80年ほど前の記録があるのみで、富山県のレッドデータブックでは「絶滅危惧Ⅰ類」とされています。

このハネナガイナゴが、最近再発見されました。場所は、小矢部市、高岡市、氷見市にわたる丘陵地に隣接する水田です。富山県内の他の場所では見つかっていませんので、最近になって石川県側から広がってきたのではないかと考えられます。他の県でも、近年ハネナガイナゴが増えてきているとのことで、場所によっては、かつて多かったコバネイナゴよりも多くみられるようになったところもあるようです。





富山県内でも、今後広がっていくのか、注意して観察する必要があると思います。皆さんも、稲刈りの終わった近くの田んぼで観察してみましょう。

ハネナガイナゴとコバネイナゴの見分け方

両種ともに、水田やその周囲の草むらや湿地にいて、イネ科の植物を食べます。幼虫は6月から8月に、成虫は8月中旬から10月にみられますが、ハネナガイナゴの方が成虫になるのが少し早いようです。

ハネナガイナゴとコバネイナゴは、以下の表で見分けられます。

(根来 尚)

ハネナガイナゴ	コバネイナゴ
	
メス	メス
ハネの長さ: 後足のひざより長い ハネの形: ハネの端に向かってやや幅広くなる	後足のひざより短い(時に少し長い個体もある) ハネの端に向かって幅広くならない
	
メス腹部のトゲ: 腹部の第3節端に小さなトゲが有る	腹部の第3節端に小さなトゲは無い